

# 令和4年度農作物病虫害発生予察技術資料第4号

令和4年(2022年)8月1日  
山口県病虫害防除所

## ナシのハダニ類の発生状況と防除対策について

ナシのハダニ類の発生が平年に比べて多くなっています。今後も同様の発生状況が続けば落葉被害や果実品質の低下が懸念されますので、防除の徹底をお願いします。

### 1 発生状況

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は46.7% (平年12.7%)、寄生葉率17.4% (平年2.4%)で、平年に比べ多かった(図1、2)。
- (2) 主要種はクワオオハダニ、ナミハダニであった(写真1、2)

### 2 今後の予想

- (1) 発生地域 県内全域
- (2) 発生量 多
- (3) 今後の予想 福岡管区气象台発表(7月28日)の1か月予報では、気温は高いとされ、本虫による被害が増加することが懸念される。

### 3 防除対策

- (1) ハダニ類は、発生が多くなると防除が困難となり、早期の落葉を招くことがあるので、ほ場をよく確認し、防除を行う。
- (2) 他害虫を対象にピレスロイド系(IRACコード3A)やネオニコチノイド系(同4A)の薬剤を散布すると、ハダニ類やカイガラムシ類が増加する場合がありますので、散布回数は最小限に抑える。

### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤が葉裏や新梢にかかるように、十分な薬量を丁寧に散布する。
- (2) 薬剤散布後は、防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、系統の異なる薬剤で追加防除を実施する。
- (3) 薬剤抵抗性を発達させないため、IRACコードを考慮し、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (4) 薬剤散布の際には、農薬使用基準を遵守し、周辺作物への飛散防止やミツバチ等に危害を及ぼすことがないように十分注意するとともに、収穫前日数に留意して散布を行う。

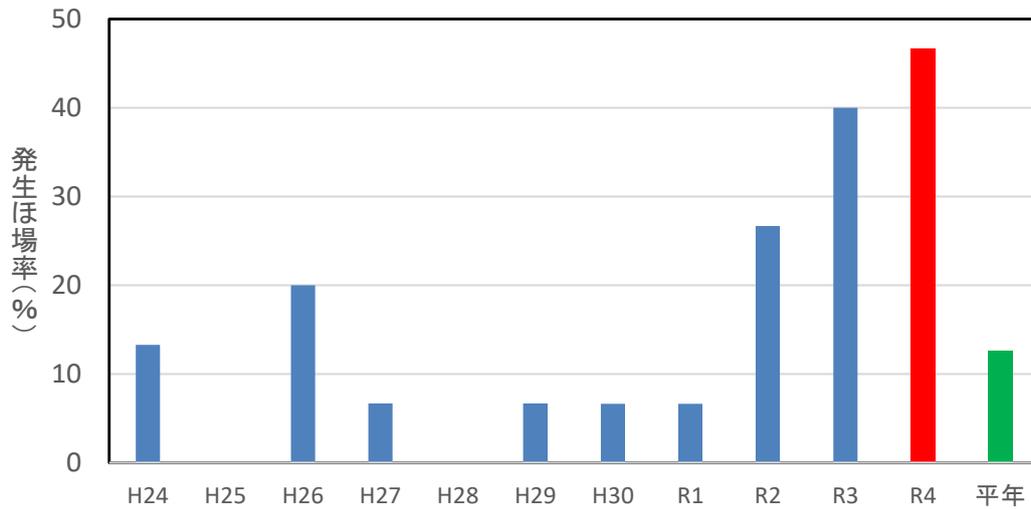


図1 ナシのハダニ類の発生ほ場率の年次比較 (7月下旬)

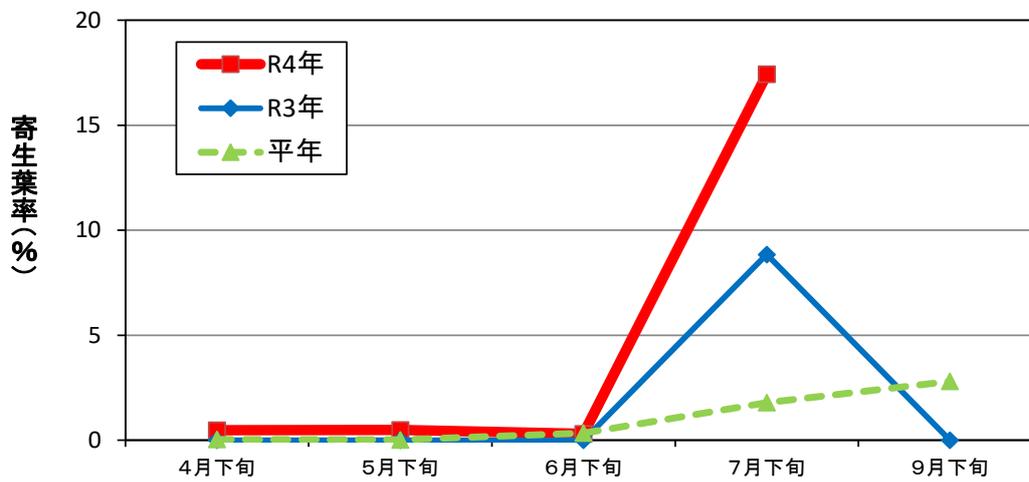


図2 ナシのハダニ類の発生推移



写真1 クワオオハダニ (雌成虫、卵)



写真2 ナミハダニ (雌成虫、卵)